414
A 2309

約書解釋ノ論

文書ノ何ノ種類ヲ論セス意義詳明ヲ要ス
ハ論ヲ俟タサレ氏中ニ就ク條約書等ノ如キ
交際上ニ関スルモノニ至テハ慎密ヲ重チ鄭重
ヲ加ヘサレハ我ノ白ト信スルモノモ彼ハ却テ
黒ト認メ一字一句ノ粗鹵ニ因テ我權利ノ伸縮
ニ関メルモノ往々之アリ凡ソ我條約上ヨリ起
ル争論ヲ歴閲スルニ裁判上往々我敗訟トナル
モノ甚タ尠カラス是レ全ク文意ノ晦渋不明ニ
シテ周密ナラサルノ致ス所ナリ加之現今ノ條
約書ハ蘭文若クハ英文ヲ原書トシ和文ノ如キ
ハ畢竟訳文タルニ過ギザルガ故ニ若シ文意ノ
間ニ争論ヲ生スルトキ其原文ヲ引證シテ之レガ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

判決ヲ下サヽルベカラス此ニ於テ乎戒主意ノ
虛無ニ屬セルヿ屢〻之アリ是レ和文ヲ原書ト
セスシテ横文ヲ原書トスルヨリ生スルノ弊害
ナリ故ニ今般新タニ條約ヲ結ハヽ必ス和文ヲ
以テ原書トナスノ一款ヲ明記シ而シテ片言隻
語ト雖モ輕々草下セス文意両端ニ渉リ字義二
様ニハルヽノ患ト章句ノ語弊ヲ防カレンヿヲ
希望ス然レモ凡ソ事我ニ一歩ノ利ヲ得レハ彼
ニ一歩ノ不利ヲ與フルハ論ヲ俟タサレハ實際
上彼ノ羨諾ヲ得ルト否サルトハ固ヨリ期スヘ
キ所ニ非スト雖只試ミニ逐條所見ヲ附シテ參
考ニ供スルノミ

○伊公使條約案ノ疑難

第二條云々

本文日本政府ノ適意ヲ以海関税及貿易規則等
ヲ制定スルノ特權ヲ羨認スルノ明文ヲ掲記シ
而シテ但書ニハ新税目及規則ハ相互ノ協議ヲ
經ルニ非サレハ変更スルヲ得ストアリ前後予
盾ヲ尾抵觸ス故ニ此但書ヲ刪除スルニ非サレ
ハ本文特權ノ二字ハ畫餅ニ屬シ到底其真味ヲ
喫スル能ハス加之本文此條約中ニ付セル云々
ノ文字ノ如キモ亦忌避セサルヘカラス何ント
ナレハ日本政府ハ此條約ニ因テ税權ヲ專有ス
ル以上ハ税目及規則ヲ以條約ニ附添スルノ理
ナシ苟クモ之ヲ附添スル片ハ恰モ現今ノ税則
及章程ト毫モ異ナルヿナクシテ今後何等ノ支

障アルモ我權内ニテ變更改正スルヲ得ス將タ何シノ益アラン概スルニ本條ノ如キハ曖昧糢糊ノ文字ヲ以テ言ヲ左右ニ托シ其實施ノ日ニ當レハ我ヲシテ寸分ノ効ヲ得セシメサルノ恐アリ

第四條云々

管理トルノ權理云々ノ句ハ日本政府ハ徒ニ沿海通航船ヲ管理スルニ止リ外人ト缶モ免許ヲ得テ通航ノ業ヲ營ムハ差支ナキニ似タリ恐ラクハ本案ノ精神ニ非ラサルヘシ

第五條云々

其港慣習ノ地方稅云々トアレモ我邦未タ船舶ニ課スルニ何等ノ地方稅ヲ以テスルフアラサレハ今日ニ當リ以國船舶ニ課スヘキモノナシ然ルニ慣習トアレハ今後若シ地方ニ於テ規則ヲ設ケ我船舶ニ賦稅スルモノヽ如キハ之ト同一ニ賦課スルヲ得サルニ似タリ果シテ然ラハ本條ニ依テ得ル所ノ利益ハ何ノ點ニ在ルヤ故ニ所習ノ二字ハ刪除セサルヘカラス且又第四條ニ於テ沿海通航ノ權理ヲ有スル以上ハ假令殘留ノ貨物ト雖モ以船ヲ以テ回漕ヲ許スノ理ナシ然レモ止ムヲ得ス本案ノ如ク之ヲ許サヽルヲ得サレハ其船舶ハ入港毎ニ定規アル諸稅ヲ納メシムルヲ至當トス

第六條云々

本條ハ該約書中ノ關鍵ナレハ最モ鄭重ニ注意

ヲ要スヘキモノトス然ルニ第二條ニ於テ論ス
ルカ如ク以國政府ヨリ日本政府ニ讓與スル所
ノ權利ハ虛名ノ權利ニシテ日本政府ヨリ以國
人ニ付與スル所ノ權利ハ有實ノ權利ナリ此實
權ヲ以テ彼虛權ニ交換スルハ我ノ不利ナリ故
ニ若シ有實ノ稅權ヲ我ニ專有スルニ非サレハ
此交換ハ寧ロ廢止スルニ如カス
本條中不動產ヲ有シ製造所ヲ開設スル等ノ如
キハ日本國在留中ニ限ルベシ故ニ若シ本人ニ
於テ日本國ヲ離去スルトキハ之ヲ日本人若クハ
日本在留ノ以國人ニ讓與セサルベカラストノ
意ヲ加ヘタシ
但シ以下該以國人ハ居留地內外ノ別ナク民

事刑事ノ裁判權其他日本政府ノ制度法令及地
方廳ノ諸規則ニ悉皆服從スヘシト改ムヘシ唯
裁判權トノミニテハ正租雜稅等ノ如キハ之ヲ
納メサルモ可ナルニ似タリ果シテ然ルトキハ內
國勸業ヲ保護スル道ナキノミナラス隨テ內國
稅收締ニ關スルノ恐アリ略言スレハ日本人同
樣ノ權利ヲ得ル以上ハ日本人同樣ノ義務ヲ盡
サヽル可カラス
又以國政府ヨリ日本國ニ稅目海關稅及ヒ其他
通商規則ニ關スル權利ヲ讓與セシ云々且第二
條ニモ云々ノ規則ヲ造為スルノ時權ヲ兼認ス
ル云々ノ文字ハ彼ノ以國ニ全權ヲ有セシヲ以
テ以來日本ヘ讓與スルノ義ニ當リ該權ノ與奪

ハ彼レニ有スルカ如シ寧ロ特權ヲ有スルモノト云フ方善カラン

第七條云々

日本裁判權ハ下第六條ノ如ク改ムベシ

第十三條云々

但書刪除スヘシ何トナレハ此條約ハ固ヨリ十二年間ノ効力ヲ有スルヲ以十分トス而シテ十二年ノ後ニ至レハ更ニ復タ各自ノ便益ト認ムルモノヲ約定スルノミ永久常存ノ語ヲ掲記スルニ及ハス若シ此明文ヲ掲記スル片ハ縱令經驗上我不利ト認ムルモノモ期滿ノ日ニ至テ尚ホ之ヲ改ムヘカラサルノ恐アリ